

2019年(令和元年) 伝染性紅斑の流行状況（長野県）

2019年(令和元年)7月24日
長野県健康福祉部保健・疾病対策課

1 伝染性紅斑とは

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19を原因とし、小児に多く見られる感染症です。典型例では両頬に蝶形紅斑が出現し、リンゴのように赤くなることから「リンゴ病」とも呼ばれており、飛沫感染、接触感染で伝播します。

感染してから約10～20日後、両頬に紅斑が現れ、続いて腕、足に網目状の発疹がみられます。頬に発疹が出現する約1週間前に風邪のような症状を呈することが多く、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発疹が出現し伝染性紅斑と診断される頃にはウイルス排出量は低下し、周囲への感染力もほとんどなくなるといわれています。

特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法になります。妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、まれに胎児の異常や流産が生じることがあります。

2 過去10年間の推移

伝染性紅斑は近年、4～6年毎の周期で流行する傾向を示しています。過去10年では2011年、2015年に大きな流行がみられており、本年は年半ばで既に2011年、2015年に次ぐ届出数となっています(図1)。

3 今年の患者発生推移

今年5月頃から全国平均を上回るようになり、第25週(6/17-23)に1医療機関当たりの届出数が2.61人となり国立感染症研究所の定める警報レベル(1医療機関当たり2人)を超えました。最新の第29週(7/14-21)は3.41人で、過去10年で最大の流行であった2015年のピークである3.30人を超えました(図2)。今後もしばらくの間は、流行の継続が懸念されます。

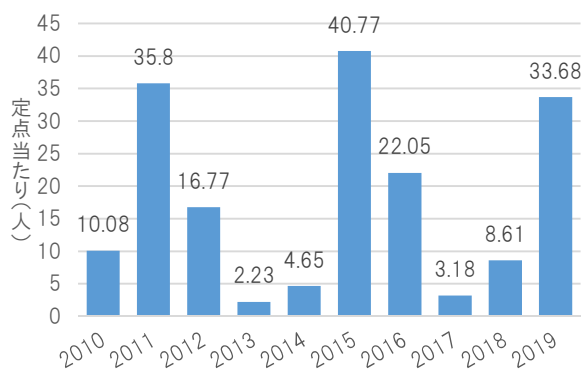


図1 過去10年の定点当たり累計
(2019年は7月21日まで)

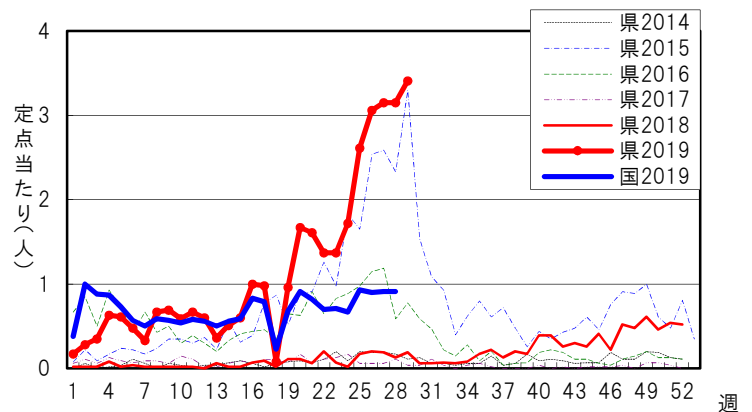


図2 伝染性紅斑週別届出数

** 感染予防のポイント! **

- ★ 手洗いや、咳エチケットなど、一般的な予防対策を心がけましょう
- ★ 小児に多い疾患です。子どもと接する機会の多い職業の方は、特に注意してください
- ★ 妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、周囲で患者発生がみられた場合、保育園の送り迎えを控える等、風邪様症状の方との接触を出来る限り避けるようにしましょう